

# 奈良県 天理中学校



	氏名	校長・教員
監督名	池本 司	○
コーチ	一瀬 孝輔	○

学校長	島 幹典
学校所在地	奈良県天理市杣之内町 827
電話	0743-637673

背番号	選手氏名	ふりがな	位置	学年	投	打
①	西岡 大祐	にしおか だいすけ	投手	3	右	左
2	波多野 匠	はたの たくみ	捕手	3	右	右
3	木村 桜二郎	きむら おうじろう	一塁手	3	右	右
4	梅本 孝将	うめもと たかまさ	二塁手	2	右	左
5	末浪 佑紘	すえなみ ゆいと	三塁手	3	右	左
6	辰巳 拓真	たつみ たくま	遊撃手	3	右	右
7	堀内 亮汰	ほりうち りょうた	左翼手	3	右	右
8	山中 康生	やまなか こうせい	中堅手	3	左	左
9	横山 一彦	よこやま かずひこ	右翼手	3	左	左
10	矢追 優作	やおい ゆうさく	投手	2	右	右
11	井久保 漱介	いくぼ そうすけ	外野手	3	右	右
12	木村 心粋	きむら こいき	捕手	1	右	左
13	北門 直人	きたかど なおと	内野手	2	右	右
14	落合 勇紀	おちあい ゆうき	内野手	3	右	左
15	浅尾 奏治	あさお そうじ	内野手	2	右	右
16	森本 征孝	もりもと まさたか	内野手	3	右	右
17	星野 理	ほしの おさむ	外野手	2	右	右
18	荒木 邦継	あらかき くにつぐ	外野手	2	右	右

第40回 全国中学校軟式野球大会 出場校紹介

近畿ブロック 第1位	ふりがな 学校名	奈良県 天理中学校	てんりちゅうがっこう								
チームの戦力分析											
1 投手について											
エースはキャプテンでもある西岡大祐。リズムよく、打たせて捕るピッチングが持ち味。もう1枚は、リリーフで活躍する辰巳拓真。スピードのある速球と、キレのある変化球が持ち味。この両投手は、昨年の近畿大会出場メンバーで、三塁手と遊撃手のポジションを守っていた。昨年は、あと一步のところまで全国に届かなかった。その悔しさをバネに一年間、厳しいトレーニングを積んできた。全国の舞台上、この両投手が強豪校相手にどう挑んでいくかが楽しみである。											
2 守備について											
野球は「守備が攻撃」を合言葉に一年間守備中心の練習を行ってきた。特に冬場は、ゴロ捕球などの基礎練習をくり返し行ってきた。投手の西岡、一塁手の木村、三塁手の末浪、遊撃手の辰巳の4人は昨年の近畿大会でレギュラーとしての出場経験をもつ。昨年あと一步のところまで全国に届かなかったが、今年はその雪辱を晴らした。一年間かけて鍛えてきた守備力がどこまで全国の舞台上で通用するか見物である。											
3 攻撃について											
少ないチャンスを見逃さない勝負強さ、粘り強さがこのチームにはある。機動力を生かして、1アウト3塁をいかにして作ることができるかが、今大会のポイントである。冬場の振り込みの成果も期待される。また「誰にでもできることを誰もができないぐらい徹底して行う」ことをテーマに一年間練習に取り組んできた。そのために、1塁までの全力疾走、同じアウトでも一歩でもベースに近いアウト、最後まであきらめない姿勢を大切にしていきたい。											
4 チームの特徴											
一昨年は、新潟県で行われた全国大会に出場したものの、1回戦で0対3で、徳島県の相生中学校に敗れた。昨年は近畿大会の準決勝で京都代表の桂中学校に敗退し、3位決定戦でも滋賀代表の彦根南中学校に敗退し、全国の切符をあと一步のところまで逃した。「全国大会で戦えるチームになろう」とキャプテンを中心にこの一年間厳しい練習にも耐えてきた。決して、力のあるチームではないが、試合を勝ちあがるごとにチームが一つにまとまってきた。このチームの最大の武器はチームのまとまりである。部員37名が一手一つとなって、試合に臨んでいきたい。											
5 全国中学校軟式野球大会出場回数		3 回目									
6 チーム成績(練習試合を含む)		67 勝 24 敗 13 分									
7 本大会までの軌跡(大会ごとに対戦相手とスコアを記入してください)											
大会			地区大会			都道府県大会			ブロック大会		
回戦	スコア	対戦校	回戦	スコア	対戦校	回戦	スコア	対戦校	回戦	スコア	対戦校
						2回戦	8-1	高田西中	1回戦	2-1	小田中
						3回戦	3-0	平群中	2回戦	1-0	寺戸中
						4回戦	11-0	富雄南中	準決勝	6-1	山田中
						準々決勝	9-2	西大和学園中	決勝	3-1	笠田中
						準決勝	1-0	大淀中			
						決勝	9-0	登美ヶ丘北中			
8 学校紹介(開会式のアナウンスの参考にさせていただきます)											
2年ぶり3回目の出場となりました。天理中学校は平成20年に創立100周年を迎えた、歴史と伝統のある中学校です。3年前に行われた第5回全日本少年軟式野球大会出場をきっかけにユニホームを天理高校野球部と同じ紫色に変更しました。伝統ある天理の名のもと、この大舞台で多くの方々へ勇気を与えられる野球をしたいと思っております。											
9 主将の抱負											
昨年の近畿大会であと一步のところまで全国を逃しました。「次こそは」という思いを持ってこの夏の大会に臨みました。全国大会出場という結果の裏には、家族、先生方、入学してから、様々なかたちで支えて下さった方々がいました。支えてくれたすべての方々への感謝を忘れず、また敗れていった奈良県のチーム、近畿のチームの思いも背負って全力で戦います。目指すは、奈良県から初の日本一。											